

資料・統計

2005年放射線治療の概要

Annual Report of Radiotherapy in 2005

杉田 公 松本 康男 椎名 真
関 裕史 古泉 直也Tadashi SUGITA, Yasuo MATSUMOTO, Makoto SHIINA,
Hiroshi SEKI and Naoya KOIZUMI

2005年の当院放射線科における放射線治療業務の概要を報告する。

2005年の新患登録者数は851で、前年比17%増であった。大幅な増加である。これに昨年までの登録患者および05年内登録例が再診したケースを加えて約1000例の治療を行なった。

表1、表2に2005年新患登録症例の原発臓器別度数および年次推移を示した。

特殊治療については全身照射14例、甲状腺癌I-131内服治療23例、バセドウ病I-131内服治療17例、Ir-192高線量率腔内照射26例（気管支3 子宮頸部23）、低線量率腔内照射なし、Cs-137およびAu-198低線量率組織内照射7例（口腔口唇6 膣1）であった。表3に例年の分類に従って密封小線源治療症例数を示した。

2005年は前立腺根治症例数と造血器系腫瘍の伸びが際立っている。前立腺癌については時代の要請であるが、造血器系のそれは原因が不明である。

全国の主だった放射線治療施設の症例数が新聞紙上で発表されるようになり、施設間の比較が容易になって来た。当院では、通常の外照射数が目立っているばかりでなく、腔内照射やアイソトープ治療等の特殊治療数も法的許容量あるいは当科の枠一杯となっており、もはや手詰まりである。

2005年は7月に定位放射線治療専用機BrainLAB社

製ノバリスが導入された。半年間で95例の治療を行なった。治療部位別の症例数は脳42、頭頸部4、肺40、肝9であった。当初、脳転移を中心とした治療を想定して導入されたものであったが、この機種は体幹部の治療も可能である。当院では体幹部病変の適応も多く、とくに肺病変には絶大な効果をもたらしている。従来から稼働している2機のライナックを用いていた症例のいくらかを、例えば前立腺癌症例等を、ノバリスに移せるかとの期待もあつたが、実行できなかった。今年に入ってもノバリスの稼働は良好で、病院の収益の点でも貢献している。

年間の症例数の伸びはノバリスによる増加分に加え、その宣伝効果が通常照射にも及んでいるようである。

ノバリス導入に関連して、ほかに3次元治療計画装置および治療専用CTが導入された。これにより当院の放射線治療計画は「3次元的」となり、従来のライナック2台による放射線治療が様相を一変した。従来は患者をシミュレータに乗せ、エックス線透視下で治療計画を立てていたが、「3次元的」では患者体表に座標軸をマークし、それを基準にCT撮影し、コンピュータ内の3次元CT像で治療計画する。精度は向上し質的管理と質的保証に寄与するところも大である。

